

シリーズ 遺伝子組み換え食品とは？

帯刀益夫（東北大学名誉教授）

第10回 GM作物やGM食品はなぜ嫌われるか

これまで述べたように、GM作物もGM食品も、その安全性に問題ではなく、世界保健機関、米国医学会、米国科学アカデミー、英國学士院など権威ある世界の科学者の組織は、GM作物について、従来の作物と比べて危険性に差がないこと、また、作物由来の成分を含んだ食品も、従来の作物の成分を含んだ同じ食品と比べて、少しも危険なものではないと表明しています。

しかし、EU諸国では、これらをかたくなに拒み続けています。なぜEUの国々は遺伝子組み換え作物を嫌うのでしょうか。

その理由の主なものは、(1) 巨大な米国の多国籍企業が消費者の選択権を失わせていることに対する拒否感、

したもの」は「悪である」という社会通念ができているため、「自然」を「操作」したGM作物・食品に対する強い反感があるようです。

こうした風潮は、GM作物や食品が安全かどうかという視点とは別であり、文化的な衝突ともいえるものです。なお、最近、EUではGM作物の栽培に関する判断を加盟各国に委ねることで合意し、政

策の方向転換を図ろうとしていると報じられています。

ところで、「安全性」という視点からは、時として専門家と思われる研究者から安全

でしたもの

結果は実験的に基礎的な誤りがあることがわかりました。

また、2012年フランスのセラリーニの研究チームは、マウスにモンサント社製のGMトウモロコシ「NK603」を投与すると腫瘍ができたと発表し、ヨーロッパ各地のメディアで大きく扇情的に取り上げられたのです。これを受けてフランス政府から調査を要請された二つの研究機関は確認実験をおこなつて、従来の安全性評価が疑われるような点は何も確認できなかつたと発表しています。

したものがわかりました。

そこで、反GM作物・食品のキヤンペーンとして展開されてゆくことになり、その影響が消えたのは、つい最近のことだということです。

ネットなどで見られる批判的見解の多くは、先にあげた

欧米の間違った研究について、特に科学的検証を示すこ

となく掲載しているものが多いようですが、見る人がその

まま受け取ると、GM食品に

対して不安感を持つてしまう

危険性があります。

したものです。

して、反GM作物・食品のキヤンペーンとして展開されて

いたのでは全く意味がない。改善

日本共産党 池田ファンクラブ・ニュース あした天気にな～れ



共闘協定書調印式

杉尾秀哉野党統一候補の勝利のための共闘協定

野党3党と杉尾秀哉候補は下記事項を共通の目標に参議院選挙の勝利をめざす。

1. 安保法制の廃止、集団的自衛権の閣議決定の撤回、民主主義の回復をめざす。
2. 安倍政権の打倒をめざす。
3. 安倍政権による憲法改悪を阻止する。
4. 格差社会の是正をはかる。

3野党と杉尾秀哉候補は、中央レベルでの5野党的政策協議の進行状況を踏まえつつ、随時、県民の声を反映するために政策に関する協議を行っていく。

これらの確認事項の目的を達成するため、3野党的「調整会議」を設置する。

2016年3月日

民主党長野県総支部連合会代表 北沢俊美
日本共産党長野県委員会委員長 鮎沢聰
社会民主党長野県連合代表 竹内久幸
参院選民主党公認候補予定者 杉尾秀哉

173号

2016年3月

部内資料

発行責任者 太田 勲 (62-5727)
議員連絡先 うすい孝彦 (62-5093)
編集責任者 服部 久子 (62-4357)
山本 久子 (61-1066)

野党3党と杉尾氏共闘協定

3月20日長野市で、参院選長野選挙区において、共産、民主、社民の野党3党と候補者となる杉尾ひでや氏との間で共闘協定書が調印されました。

調印式は4者と野党共闘に賛同する個人、市民団体も含めた「共同フリーテーブル」の中でおこなわれ、杉尾氏は「唐沢さんの非常に勇気ある決断に敬意を表したい」と唐沢さんに謝意を述べ、「市民、若者、ママの会、学者などの参加型の民主主義の現れ

に駆り立てられ決意した」「政治は強者の側にたつものではなく、弱者中心の政治でなければならない」「安倍政権の強者の政治を変える」と力強い決意表明がありました。

唐沢ちあきさんは、「安保法廃止、立憲主義を取り戻す、そして本格的な選挙協力をすること」で一致しました。私は個人としてではなく、皆さんの願い達成のために働いています。県下77自治体で杉尾さんの行けないところは私が行く」と発言し、感動を

呼びました。フリートークの発言者からは、「今回の協定は画期的な出来事である」「自公とその補完勢力対野党+市民・県民の戦いだ」「絶対に勝利しなければならない」「安倍政権の強者の政治を変える」と力強い決意表明がありまし

た。唐沢ちあきさんは、「安保法廃止、立憲主義を取り戻す、そして本格的な選挙協力をすること」で一致しました。私は個人としてではなく、皆さんの願い達成のために働いています。県下77自治体で杉尾さんの行けないところは私が行く」と発言し、感動を

ラム 有明

15人が亡くなつた軽井沢のスキーバス事故はコショックだった。▼31年前日本福祉大学生ら25人が長野市犀川に転落した事故を思い出したからだ。知り合いの凛々しい娘さんはこの時「養護教諭」になる夢を打ち碎かれたのだ。これらの事故は安価という価格競争がある限り今後も起きるのではないかと不安になる。▼人間には体内時計があり睡眠ホルモンが作用しているとのことだ。人は暗くなると、睡眠ホルモンを分泌し、光をあびると分泌を止めるサイクルを24時間くりかえしているのだ。▼

「夜間バス」の走行は深夜帯の数時間暗い中で神経を集中させるわけがない。何か刺激を与えるから覚醒できているのだそうだ。▼深夜バスには2人のドライバーを置き、常に2人が声を掛け合うなどする必要があるだろう。交代運転だからと1人が仮眠していたのでは全く意味がない。改善

を強く求める。

（2）GM大豆などは、農民および種子生産者には利点があるものの、消費者に特段の利点がないのに、なぜ買うことを強要されるのかという疑問、そして、（3）国の科学的審査機関が安全だと表明したにもかかわらず、BSE（牛海綿状脳症または狂牛病）の問題を防げなかつたことから、国の安全性審査に対する不信感が継続したままであることです。これらはGM作物・食品の安全性についての科学的判断とは直接関係しない問題だったのです。

さらに、宗教離れが進んでいる西欧世界では、「自然」が「神」と同等になつてゐる傾向が強く、「自然」は「良いもの」であり、「人間が操

さるの」であります。性に警鐘を与えるような研究報告が発表され、その影響が社会的に大きくなることが起きています。

1998年スコットランドのパズタイが、英国のテレビ番組で、GMジャガイモがラットの免疫低下をもたらしたこと公表したことによって、英の消費者のGM食品に対する受け取り方は一変していました。その後、この研究

は煙は立たない」の例えのように、これらの事件はその後も長いこと、EUを中心化M作物の危険性を示すものと取り除くことは容易ではありません。

また、「火のないところには煙は立たない」の例えのように、これらの事件はその後も長いこと、EUを中心化M作物の危険性を示すものと取り除くことは容易ではありません。

こうした出来事があると、消費者は「GM食品の安全性について科学者は統一的な見解に到つていらない」と感じてしまい、いつたん生じた不安を取り除くことは容易ではありません。

信州市民連合

ぶつちやけトーク

信州市民連合は21日、松本で「杉尾ひでやさんとぶつちやけトーク」を開催しました。長年報道現場やニュースキャスターとして活躍してきた杉尾さんは、語り口が明確で説得力がありました。参加した共産党の石坂千穂さんは「野党共闘が実現したのは、勝たなければならぬ大敗北を経たから。できることは何でもやろう」と呼びかけました。

牛越邦夫